

# 株式会社 トライワープ

- 所在地：〒260-0044 千葉市中央区松波 2-7-10
- 代表者：代表取締役 虎岩雅明
- 創業・設立：2007年4月3日（創業2003年6月24日）
- 事業内容：パソコンライフサポート事業・WEB制作事業・ICTコンサルティング事業
- URL：<http://trywarp.co.jp/>



【取材対象者】

代表取締役 虎岩雅明氏

## 【ITを利用して、人と人、人と街をつなぐ】

大学時代の、学生と学生、大学と社会、学生と街をつないだ経験がビジネスの根幹。

社会に貢献し、社会のためになることをすることそのものが、CSRと語る。

「情報が地域化」していく時代のサポーターであり、コーディネーターとして社会と共生している。

### ■CSRの考え方について

CSRとは企業の社会的責任といわれるが、そもそも社会的じゃない企業に存在する意味はあるのか？CSRは企業にとっては当然なものであるため、企業の事業そのものが社会貢献の意味合いを持たなくてはならない。

ただ現在は、利益を出そうとのみしている企業は多い。企業のお金の使い方、CSRの捉え方がわかる。企業にとってお金は道具である。道具を使って事業を加速する事もできるが良くも悪くもできる、道具を企業がどう使うかが大切なのだ。お金やパソコンは人に都合のいい道具でしかない。道具を上手く使って社会貢献をしっかり掲げられる会社作りをしたい、そこには持ちつ持たれつの関係が重要なのである。

### ■社長業の喜びについて

元来、人との関わりをととても大切にしている。そのため、大勢の人の役に立てる時や、持ちつ持たれつの中に入れた瞬間に幸せを感じている。

また、多くの人と関わることができる今の生活が楽しい。

### ■20歳の頃取り組んでいたこと

20歳の時に大手企業のエンジニアだった父を亡くし、自分自身も千葉大学の2年生だったということですごく大

変だった。大学に入り、ガンジーの言葉「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい。」という言葉がいつも大事にしていた。その言葉に後押しされて、大学祭では多くの企業にスポンサーになってもらい、一から企画やイベントを作り上げる経験を持つことができた。楽しく有意義な思い出である。



■現在のビジネスモデルが生まれるまで  
虎岩社長は、2003年に法人化を目的とした学生サークル「トライワーププロジェクト」を発足。

2004年に「非特定営利法人TRYWARP」を設立し、2007年に株式会社トライワープソリューションズを設立、2012年に現在の商号「株式会社トライワープ」に変わり、現在に至る。

事業内容は、パソコンライフサポート事業とSNS（ソーシャルネットサービス）の開発・運営等を行っている。

発足した当時、「地域の世代間交流が、その地域への愛着を生む」という仮説の下に活動を始めた。この仮説は、例えば

西千葉の高齢者と、同じく西千葉の大学生が西千葉で交流してもらうことに意味がある。そこで、「パソコンを教えること」を地域の世代間交流のきっかけにするため、始めた事業である。

西千葉でパソコン教室を運営している時に、西千葉での世代間交流を考えながら、大学生スタッフを集めていたところ、大学1年生はパソコンができないということが分かった。そこで、大学1年生に先輩がパソコンを教える取り組みを考えた。なぜなら、大学1年生から4年生の学年の異なる交流も世代間交流であり、同じ大学というセグメントされた地域であるからだ。

この取り組みを千葉大学へ提案に行った。大学の先輩が大学の後輩に教えてあげるという取り組みは、大学にとって大学への愛着を生んで大事なのではないかと。学内での循環が遠心力となり、大学の周りの地域に波及していったら、素晴らしいのではないかと。そして、この取り組みが始まった。

この取り組みを始めた当初は、西千葉のパソコン教室と同様に講師役となる学生が集まらなかったが、「クリックできる方募集。ダブルクリックできれば尚可。」のように、あえて応募資格を作ったところ、「ホントにクリックだけでいいですか？」とたくさん集まるようになった。また、大学生が講師となっ

て地域で教える前に、世代の近い大学の後輩に教えて慣れてきてから地域に出て教えるという循環も生まれた。現在は、この取り組みが広がり、8大学で取り組むこととなっている。

虎岩社長は今後の自社のミッションについて次のように話している。「パソコンでの利活用が多様化していくとパソコンをインストラクターや専門家に聞く時代はまもなく終わる。どちらかというと自分の趣味の先輩や自分の地域の先輩に聞ける状態を繋げていくことが、我々のミッションであると考えている。教えたい大学生や主婦の方たちと習いたい地域の人を、全国にオンラインで繋げるようにしたい。」と。

つまり、「地域」という言葉の意味が大きく変容しており、これまでの「地図上の区域的なコミュニティ」だけでなく、「趣味嗜好や仕事内容によるコミュニティ」も含んだものになりつつあると捉え、その様々なニーズに合わせ、地域の世代間交流から地域への愛着を生み出すことが、虎岩社長のビジネスモデルの根幹にあると言える。

#### ■今、20歳の人たちへのアドバイスについて

今やりたいことや挑戦したいことをやろう。今やりたいことをやらない人が、将来のことを考えられるわけではない。だからこそ自分のやりたいことや夢には誠実になってほしい。

#### ■編集後記

◎高尾 樹々央

今回の企画は「経営者に話を聞きたい」と私が粟屋先生に話したのがきっかけでした。夢が叶って嬉しくて、虎岩社長に会う前から、ずっとドキドキワクワクしていました。お会いすると、楽しいけれども熱心にお話をしてくださり、まるでスポーツをしているような高揚した気分になりました。

虎岩社長の会社は、パソコンという道具を使ってお年寄りにパソコン教室を

開き、出来るようになってもらう。そこから地域交流をする場を作ることから始まりました。事業そのものが社会に貢献していて、人との繋がりを大切にしている会社だと思います。

虎岩社長の言葉「そもそも社会的じゃない企業は存在する意味はあるのか」、この言葉は私にとって心に残る一言でした。虎岩社長のように、社会のためになる仕事をするという情熱を持って働くことができるよう、学生時代の一日一日大切にしようと思います。ありがとうございました。

◎佐藤 佑哉

虎岩社長の社会貢献のための会社作りは、その会社の気持ちや顔が見えてくるものだと思います。しかし、虎岩社長がおっしゃったように「やりたいと思ったことを素直に行動に移す」ことは、難しいことだと思いますが、それを出来てしまう虎岩社長はカッコいいと思います。

自分自身も社会への接点の持ち方を考えながら、毎日の生活を満足するまで楽しんで、真面目にやるときはやると、メリハリをつけて過ごしていきたいと思います。

◎木村 祐輔

虎岩社長の考えるCSRは、会社にとって当然なことと聞き、強く印象に残りました。その中でも、人の役に立つことを第一にしているトライワープさんは、パソコン教室などを開いて社会に貢献

しているの、自分も社会貢献という考え方を大事にし、人の役に立ちたいと思います。また、虎岩社長から聞いた話を自分が就職した時の参考にし、この貴重な体験を無駄にしないように頑張っていきます。

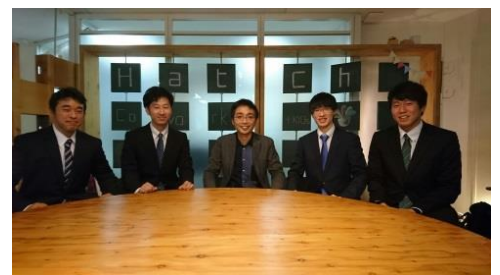
最後に、「単位の数は友達の数」と聞き、今の友人関係を充実させ、一日一日を楽しく過ごしていきたいと思います。

◎山田 周平

CSRについての虎岩社長の考えを聞いて、企業の社会に対する貢献は確かにCSRにあてはまっているものの、会社の継続のみをメインとしている会社は社会に貢献してはいないと思います。そもそも会社とは、地域や周りを良い形にしていくために設立されたわけで、会社だけに利益をもたらすことではないことがわかりました。

自分なりにまとめるとCSRとは、周りのことを考えて企画を考案し、地域を活性化させていくことだと感じました。

また、虎岩社長のいろいろな話を聞いて、虎岩社長の学生時代の努力が今に活きていると感じました。私も今の時間を大切にしようと思います。



#### ■敬愛大学経済学部経営学科粟屋教授より総評

株式会社トライワープは、そもそも社会貢献マインドの強い虎岩社長の大学時代の課外活動から始まった企業である。大学時代の課外活動とは、大学生と街の商店街を、パソコンリテラシーを介してつなぎ、地域活性化に貢献したものである。そうした活動の背景には、虎岩社長の地域的かつ社会的問題の発見や、解決手法の模索がある。

それらの経験を基にする虎岩社長には、社会貢献こそが事業であり、社会的責任を負うことが企業の役割とする哲学がある。

まだ30代とお若いながらも、経済性と社会性の両立を前提とする生き方に、ゼミ生たちも強く感銘を受けている。感謝申し上げる。